

基本構想（骨子案）に対する市民等の皆様からのご意見等と市の考え方

1. 将来都市像について

意見等の内容	市の考え方
<p>私たちの暮らしの充実感は「都市の規模」によりもたらされたものばかりでしょうか？ 3段目までは、多様なライフスタイルや価値観に対応するまちづくりは「都市の規模」のみを補完すればいい、とも解釈できません。</p>	<p>御意見を参考に、構想を見直しました。</p>
<p>この「まちづくり構想（案）」が8年後の、あるいは40年先を見据えたまちづくりの理念を示すものであるならば、人口減少以外の社会の変化（更なる情報化社会の到来など）にも着目して、まちづくりの理念を整理してはどうでしょうか。 背景の整理として、要件が不足していると感じます。</p>	<p>人工知能（AI）や第5世代移動通信システム（5G）といった未来技術の地域社会への実装など、本市の秘めたる可能性を開花させるための新たなインフラや地域資源を生かした産業振興を図ること、また、市民一人ひとりが自分らしさや生きがいを見出し、生涯にわたり主体的に何度も挑戦し、活躍できる地域社会を実現することなどを目指すこととしました。</p>
<p>阿南市は日亜化学工業の発展と大企業がひしめく工業都市です。夜の人口より昼の人口が1万人も多く四国でも有数の産業都市である。それでも人口が減少している現状は市民として到底納得できない。 しかし今回の資料には出てないが5年以内では社会増で14歳以下の子供の数は徐々に増加している。 前市長は成長する日亜化学や県南の中核都市を目指し人口10万～20万人を対象とする大きく立派な新庁舎を完成させた。しかし人口を増加させることを目的とした施策は実現できなかった。 今の日本は人口が減少することが前提となった時から衰退している。人口の減少する地域の繁栄は歴史上ない。日本の他の地方地域では本市が掲げる「まちづくり構想（案）」の通りであるが、現在の阿南市には当てはまらず、一から作文をし直すべきと考える。また人口減少を前提にしたまちづくりではなく、人口増加の工夫を模索するべきである。5年前に春日団地のような団地を阿南市内に作っていたら少なくとも人口は増加に転じていると予測できる。</p>	<p>本市の人口は、出生率が上がっても、20年から40年は人口は減少することが予想されています。もちろん、人口が増やすことをあきらめているわけではありませんが、人口減少社会に適応したまちづくりも併せて取り組んでいくことも重要であると考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・将来都市像とは、まちづくり構想のことでしょうか？ ・文中では、人口減少、都市規模の縮小により、暮らしの充実感に欠けるという前提になっていますが、その前提、マインドセットは本当に正しいのでしょうか。 ・例えば、人口減少のために現状のままの税制度では税収が減少し、行政の担える範囲は狭まると考えられます。この場合に、小さな行政となることが、市民の暮らしの充実感との相関について、阿南市の場合にどこまで影響を与えるのかよく見極める必要があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来都市像とは、本市が目指すまちづくりの方向性のことで、本総合計画においては、8年後のまちの姿をいいます。 ・人口減少が進むと、暮らしの様々なところに影響を及ぼす可能性があることを踏まえております。 ・御意見を参考にさせていただきます。
<p>阿南市は1次産業（農林水産業）に適した土地であり、多様な生態系を活かしたまちづくりを第6次阿南市総合計画に取り入れていただきたい。放置されたままになっている竹林で竹資源産業クラスター（集合体）を起こし地域活性化をはかる。 資料より労働人口が減少するが、いままで活用されていなかった高齢者、女性、外国人を活用するために小規模家族型経営を行う。1次産業として竹林から竹を取り出し、2次産業で加工し、3次産業で販売することにより、竹資源開発は6次産業化できる。 →竹資源産業については別紙（別シート）参照</p>	<p>竹資源の活用等については、基本計画（基本政策IV（1農業・林業・漁業）の基本目標3「第1次産業の諸課題の解決と売れる商材の確立」の中で、主要な施策として、「竹資源の活用と放置竹林の再生」に取り組むこととしました。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>阿南市は地理的には徳島県南部エリアに位置しており、工業都市として成長発展しています。まちづくりの方向には、それぞれの町の特徴がありますが、阿南市は新産業都市の指定依頼、工業の町として長年にわたりまちづくりに取り組んできています。データでは、近年も製造品出荷額は伸び続けていますし、移住者数も県下一とことです。本市のまちづくりの方向性については、「工業都市」として成長していることから、今後においても、まちづくりの方針は堅持するべきだと思います。市民の誰もが「阿南市は新技術を有する工業都市です」と胸を張って自慢できる町であり続けることが町のアイデンティティとなることを総合計画に表現することを希望しています。又、前回の総合計画における表現では、抽象的表現や形容詞が多すぎるのではと考えています。市民が読んではっきりと理解できる表現とするべきだと思います。</p>	<p>人工知能（AI）や第5世代移動通信システム（5G）といった未来技術の地域社会への実装など、本市の秘めたる可能性を開花させるための新たなインフラや地域資源を生かした産業振興を図ることとしました。</p>
<p>徳島県南部の主要都市として、農林水産の地産地消及びグローバル化に対応できる発信基地の構築、地元企業の発展、継続及び企業誘致の協力支援。高率・私立大学誘致の一貫教育による人事育成を行い、阿南市はもとより、県外からも若者の定住促進を図り人口減少ストップ化の実現を目指す。豊かな自然を活かした観光資源の発掘、開発を行い世界に、ANAN発信し賑やかな街を創る。東南海地震による津波被害の軽減を官学の取り組みにより安心・安全なまちづくり。全ての町に医療体制の充実を図り市民の健康を守る。過疎地域への交通網整備により高齢者の生活を構築する。取り組むなら世界のANANを目指す。</p>	<p>四国横断自動車や阿南安芸自動車道の開通を視野に入れ、人工知能（AI）や第5世代移動通信システム（5G）といった未来技術の地域社会への実装など、本市の秘めたる可能性を開花させるための新たなインフラや地域資源を生かしながら、産業の更なる振興と多様化を進め、既存産業だけではなく、次世代・未来につながる新たな産業を創出することで、本市の魅力と持続可能性を高めていくこととしました。</p>
<p>持続可能かつ調和の街「阿南圏域」別添のPPTを参照ください。自然・産業・農林漁業・教育、自然エネルギー、水、食べ物、暮らし等において調和がとれ、阿南圏域で自給可能、自立した持続可能の街。持続可能かつ調和の街「阿南圏域」を目指し、街を再構築していくことで、人口減少、高齢化、過疎化を食い止め、世界の中でキラリと光る街を目指す。</p>	<p>長期ビジョン（2060年への道標）を、「人口減少社会に立ち向かい“豊かでキラリと輝く”まちへ」とし、持続可能なまちづくりを目指すこととしました。</p>

2. まちづくりの視点について

意見等の内容	市の考え方
<p>①3案ともに共通するキーワードは「持続可能」だと思いますが、「まちづくり構想(案)」(理念)の中に「持続可能」というキーワードが触れられていないのが奇異に思われます。</p> <p>②また、まちづくり構想(案)のなかには「来訪者」が表現されていないことも奇異に思われます。</p> <p>③この視点の中には、「外部からの視点」が意識されていないように思えます。外部との交流の在り方、方針は阿南市の将来像に大きく影響します。</p> <p>④極端に内向きな視点で整理すると、狭小な考え方に陥る可能性があります。地域外からの視点を考慮した整理をされてはどうでしょうか。原案は「内向き」の整理しか見えません。</p>	<p>① 長期ビジョンとして、「持続可能なまちづくり」を目指すこととしました。</p> <p>② 「来訪者」という文言は、再考により削除しました。</p> <p>③ 外部とのつながりについては、「基本政策」の中で関係人口・交流人口の拡大を図ることとしました。</p>
<p>四国有数の産業都市である阿南市は他の地域の模範でなければならない。たとえば市民の過半の人が関連している企業の考えをまちづくりに取り入れるべきで、さらに産業都市として阿南市を発展させ、人口を増やし中小商工業者を元気にさせると自然に活力のある、持続可能性や幸福満足度の高い街へと飛躍発展する。近い将来起こる南海地震と津波や那賀川、桑野川の氾濫による対策や引き堤防等の計画や住みやすい交通網なども視点として取り入れるべきである。</p>	<p>「地場産業の高度化」「新たな産業の創出」「雇用の確保」などに取り組む「未来を切り拓く「革新創造」のまちづくり」の視点や、大規模災害などに対応し、誰もが住み慣れたまちで「安全で安心して暮らすことのできるまちづくり」の視点を盛り込みました。</p>
<p>①全体の幸福と、個人の幸福と、両方からアプローチしていく視点があるのが良いと思います。</p> <p>②第1案では市民主体という言葉が使用されているが、幸福満足度という具体的な指標で評価する方がよい。政策評価に耐えるよう、計画の段階から設計してく方がよいと思います。</p>	<p>① 御意見を参考にさせていただきます。</p> <p>② 市民満足度に関する指標は、基本計画の基本政策VI(3行財政運営)の基本目標1の成果指標として設定することとしました。</p>
<p>阿南市は活力あるまちづくりを実行しなければいけない。次世代につなげる持続可能なまちづくりを行うためには、地域資源を生かした新産業が必要である。阿南市の特徴である生物多様性を生かし、SDGsの「誰一人も取り残さない」理念を子どもから高齢者まで実践するための家族型経営を基にした竹資源開発がまちづくりの基盤となる。</p>	<p>竹資源の活用等については、基本計画(基本政策IV(1農業・林業・漁業)の基本目標3「第1次産業の諸課題の解決と売れる商材の確立」の中で、主要な施策として、「竹資源の活用と放置竹林の再生」に取り組むこととしました。</p>
<p>・人口減少を是とせず、阿南市の有するポテンシャルを活かし、工業都市としてこれまでの成長発展を継続することを主眼とするべきです。</p> <p>・徳島県内においては、人口増加を実現している藍住町、北島町また、県外中参加地においても、高知県梶原町、大川村など厳しい社会経済状況の自治体でも人口社会増を実現している市町もあります。むしろ、生産拠点整備では極めて成功している阿南市が何故、人口減少が止められないのか、の検証が不十分です。前総合計画の検証結果の検証にも疑問を感じています。過去の検証が不十分なままでは、新しい総合計画策定が難しいと考えています。</p>	<p>「地場産業の高度化」「新たな産業の創出」「雇用の確保」などに取り組む「未来を切り拓く「革新創造」のまちづくり」の視点を盛り込みました。</p>

意見等の内容	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を食い止める政策を市民・企業・個人事業主の意見交換の場を作り諦めず継続していく。 ・沿岸部を活かし大阪・神戸・関西国際空港方面への海路の復活を図る。 ・大量輸送可能な海運業を活用し港町の賑わいを取り戻す。 ・Eスポーツに特化した拠点づくり。 ・豊かな海を活かしたマリンスポーツの拠点づくり。 	<p>4つ目までの御意見は、参考にさせていただきます。 5つ目の御意見については、基本構想の基本政策4の中でSUPなど、地域資源を生かした地域ブランディングに取り組むこととしました。</p>
<p>1案：改革、創造性による活性化を通じた街づくり 3案：人口減少、成長しない前提での幸せな街づくり。これの両極だけでなく、両方の視点を持ちながらこれからの変化する時代を生き残る「両利きの経営」チャールズ・A・オライリー、マイケル・L・タッシュマンを参照すべきである。 現在の企業あるいは100年以上の老舗企業において、今までの延長線上で最適化を図る戦略、そして、今までの成功体験にとらわれない変革の戦略。この両方の戦略は同時並行的に取られ、その結果としてエンティティは持続可能となる。 阿南市も企業と同様である。環境が常に急激な変化をする世の中において、同じ戦略で持続可能とはなりえない。常に、最良を求め両利きの経営を行うべきである。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>1. 「スクラップ&ビルドでSDGsの達成に向けて取り組む」とあるが、そもそもSDGsの基本を尊重した視点になっていない。特に、全ての基盤となる自然環境と気候変動への対応・配慮が欠落している。</p> <div data-bbox="311 958 678 1227" data-label="Diagram"> </div> <p>上記、SDGsウェディングケーキモデル(Stockholm Resilience Centre, Stockholm University)の考え方に基づく、経済は社会に埋め込まれ、社会は生物圏に埋め込まれている(経済は社会の安定によって支えられているのは、コロナ禍が証明済み)。すなわち、安定的な自然環境・生物多様性は、経済や社会の基礎・基盤であることを忘れてはならない。 ところが、示された3つのまちづくりの視点は、どれも社会課題や経済偏重であり、自然環境や気候変動への配慮がほとんど見られず、「昭和の香り」を感じる。一地方都市といえども、人類の共通課題であるSDGs達成への貢献や気候変動への対応は、地球人として手を抜くことはできない。常にThink globally, Act locallyを実践し、世界全体を阿南から考えることこそが真の豊かさにつながる。自然環境や気候変動への対応をしっかりと行っただ上、社会課題の解決や経済活性化がSDGs時代の総合計画である。</p> <p>2. 「次世代につなげる持続可能なまちづくり」が最上位にくるべき すべての取組は、持続可能性につながる。そのためには、すべての取組を個々に推進するのではなく、SDGsの理念に基づき、横断的に取り組む必要がある。それによって無駄を省き、施策の方向性の統一が可能になる。横断的に取り組むための視点と組織改革が必要である。</p>	<p>基本計画の中で、総合計画と一体的に推進することとしました。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>・まちづくりの視点における上位概念は「地域の誇りづくり」であり、「活力」「持続可能」「革新・創造」は、そのための手段でないか。</p> <p>・「1 …主体となった自主自立…」を「1 …主体となり成長しながら自主自立」に変更→市民が流れの早い時代に合わせて、学び成長していく視点が重要である。</p> <p>・「3」の「新たな産業の創出」を「新たな産業の創出・誘致」に変更→「今」のチャンスを書き込むべき。</p> <p>・阿南市の住民であることを楽しむ（「誇り」を持つ）ためには、隣接市町の資源（自然文化等）を一緒に活用させてもらう視点が大切で、「2」或いは「3」に「隣接市町との連携」を入れるべき。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>本格的な人口減少の到来を真正面に捉え、それに向けた「官民のまちづくりへの覚悟」を市民の共通認識とする必要があると思います。</p> <p>ただ、「持続可能性向上」は分かりにくいので、「持続可能な社会構築」とすればどうでしょうか。また、「多様性と包摂性のある」という文章は難しく、やさしいことばへの置き換えを望みます。</p>	<p>御意見を参考に、文章表現を見直しました。</p>
<p>・アプローチとして3つの案があるということは、おそらく3つのグループに分かれて、グループ毎に重要と考えられる3つの視点を抽出し、そこから政策の柱を作り上げたか、またはその逆のプロセスから案を練り上げたものと思われる。3つの案ともそれぞれに特徴的な視点から、意味・意義・意図があり、表現は異なっても共通する内容や項目が散見される。よって、この3つの案の意味・意義・意図をそのまま活かした内容で、改めて総合的に揉んでまとめてみてよいのではないと思われるが、どうだろう。</p> <p>・また、こういった「まちづくり」はとく線形的なプロセスで練り上げられ、「ツリー」構造に陥ってしまうことがある。別途、「セミラチス」(※2)というような構造体を意識しながらつくってみても、おもしろいのではないだろうか。参考書籍としては、C・アレグザンダーの『まちづくりの新しい理論』、『ザ・ネイチャー・オブ・オーダー』辺りをお勧めしたい。</p> <p>(※2)「セミラチス」に関する参考情報 https://scrapbox.io/nishio/セミラチス http://www.nikken-ri.com/valueup/column09.html</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>財政逼迫の阿南市を今日の姿に成長させたのは、工業開発です。まずは、阿南市発展の主たる方針として、これまで成長を牽引してきた「工業開発」をぶれずに継続することを最優先するべきです。</p> <p>まちづくりへの取組において、一定の成果を市民に享受できるまでには相当の期間と政策投入が必要であることは論を待たない事実です。</p> <p>県下一となった工業生産を土台として、これからのまちづくりを進めるためには、その根幹となる阿南市都市計画において住宅建築可能エリアの拡大や、国道55号沿線及び都市計画道路沿線の店舗、サービス産業整備などへの基盤整備により、定住促進と子育て支援に取り組むことが大切だと考えています。</p>	<p>御意見を参考に、構想案を見直しました。</p>

3. 政策の柱について

意見等の内容	市の考え方
<p>①人口減少が社会全体で避けられないことだとすれば、地域社会や経済を支える仕組みとして、市内部に向けた視点だけではなく、市を取り巻く外部環境とのやり取りを意識した政策を立案・実行する必要があると思います。</p> <p>②外部環境とのやり取りが避けられないものだとすれば、市を取り巻く外部に向けて、総合計画は、阿南市がどのような市になろうとしているのかアピールできなければ意味がありません。バランスのとれた内外への施策を立案実行する必要があると思います。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>どれも素晴らしい言葉であるが、阿南市の独自性のある政策が欲しい。例えば、日垂化学工業との共生とか、阿南市中心部への若者定住団地の新設とか広く市民に公募してみることが重要では。</p>	<p>御意見は参考にさせていただきますが、政策を公募することは考えておりません。</p>
<p>①都市基盤に安全が入ることにより、市民、職員の意識が、安全で安心して住み続けられるまちの視点に向かって、はっきりすると思います。</p> <p>②4. 産業 の文面は低成長時代の持続可能なまちづくりと合致せずに、これまでのような人口経済規模の拡大を前提としているような文面です。1. 健康・福祉等と、2. 教育・文化と4. 産業と一体化させてはどうでしょうか。働くのは健康や福祉のため、教育のためです。ウェルビーイングと産業とを明確に結ぶ必要があります。</p>	<p>①については、「都市基盤・都市環境」の基本政策について、「快適かつ安全に暮らすことができる都市基盤の構築に向け、利便性の高い市街地や快適な住環境の形成、道路・橋りょうの適正な整備と維持管理、公共交通の利便性の向上及び上下水道の適正な管理・運営に努めます。」としました。</p> <p>②について、ウェルビーイングの考え方はとても大切だと考えております。</p>
<p>持続可能な阿南市の将来計画は、阿南市が日本において独自性を発揮できることが重要である。今後40年で阿南市人口が半減することが見込まれているが、生き残る(持続可能性)ためには、阿南市の豊かな自然を活かしたまちおこしのための産業が必要である。放置竹林で環境悪化し衰退する中山間・里山エリアを、活性化させる竹資源産業こそ最適である。</p> <p>竹資源から農業用資材、熱エネルギーを作り出すことにより、国連が提唱する「持続性のある小規模家族農業」(有機農業、eco農業等)を実現し、移住者や働き手呼び込むことができる。</p>	<p>竹資源の活用等については、基本計画(基本政策IV(1農業・林業・漁業)の基本目標3「第1次産業の諸課題の解決と売れる商材の確立」の中で、主要な施策として、「竹資源の活用と放置竹林の再生」に取り組むこととしました。</p>
<p>・「世界に冠たる次世代工業都市」だと思います。町のサステイナビリティを支えるのは、経済基盤であることは当然のことです。阿南市の工業生産性は、全国有数と言われています。この一点を訴求することこそ未来の阿南市発展に繋がるものです。</p> <p>・高速道路整備が南進しています。本総合計画では、高速道路整備を見据えた計画が不可欠です。高速道路開通により利便性は飛躍的に高まる一方で、ストローク効果などによるマイナス効果が顕著となります。本総合計画において、高速道路を活かしたまちづくり計画の策定するべきだと思います。</p>	<p>基本政策の一つを「地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくり」とし、その中で、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の開通による交通の利便性の向上を視野に入れ、関係団体や事業者とも連携して農林水産業や商工業の振興を図るとともに、新産業の創出や企業立地を推進し、雇用の拡大に努めることとしています。</p>
<p>・次世代を担う人材育成 ・津波に強い防潮堤の整備 ・グローバル化に対応できる町</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>1. 政策の柱に、「まちづくりにおける自然環境の持続的活用」が抜けている。</p> <p>市民アンケートにおいて、阿南市の魅力は、「豊かな自然環境に恵まれている」が断トツトップであり、市民の声にも「豊かな自然を次世代に残したい」とある。さらには、阿南市の強みにも、「自然がもたらす恵みを再認識し、その多面的機能を守り育てていくとともに、自然と調和したまちづくりが一層求められます」とあるのに、政策の柱に「自然環境」という言葉が出てこないのは、誠に残念である。</p> <p>また、阿南の豊かな自然環境は、何もしなくて保たれてきたわけではない。先人達の努力の賜物であり、我々も現在のスタイルで引き継ぐべきである。すなわち、貴重な自然は保護し、里山環境は維持管理を行い、外来種等のかく乱は排除し、気候変動への適応策や緩和策も必要となる。そして、豊かな自然環境を持続的に利用し、地域資源として地域活性化の柱とするのが、今の流れである。</p> <p>具体的には、生物多様性あな戦略に挙げられた自然環境の課題を整理し、社会の課題、経済の課題を一体化した分野横断的な施策の設定と実施が必要である。そういった意味でも、環境省が第5次環境基本計画で提案している「地域循環共生圏」のモデルを阿南市で構築し、社会・経済・環境の三側面からの包括的アプローチが有効となる。</p> <p>2. 持続可能性向上に資する政策が必要</p> <p>地球環境問題への重要性が提起されているにもかかわらず、政策の柱にはその取組が挙げられていない。すでに阿南市で取組まれている低炭素や生物多様性を軸に、世界的に批判の多い石炭火力発電所の行く末の検討、ポテンシャルの高い海上風力を含む再生エネルギーへの取組み、地域循環共生圏の導入、など時流に乗った取組み、分野横断的な取組みが必要である。</p> <p>3. 人口減少社会への適応法は、都市計画と福祉だけでは限らない</p> <p>コンパクトシティ（都市計画）と地域包括ケアシステム（福祉）の必要性が記載されているが、自然の持続可能性の視点からの記載がない。</p> <p>里地里山のように、人の暮らしがあってこそその自然環境はどのように維持していくのかを示すべきである。また、水田が持つ保水・遊水機能が大雨・洪水対策に有効であるように、人の営みによって支えられる自然災害対策もある。人が減少することによる、自然環境の機能の喪失にも目を向ける必要がある。生態系の利点を防災に活かせるグリーンインフラ等（東部松林、那賀川・桑野川の遊水機能拡大等）も積極的に政策の柱にしてはどうか。</p> <p>4. 政策の割り方が、従来の市役所の担当課割になっており、SDGsの趣旨である経済・社会・環境の統合的解決ができるのか疑問である。</p> <p>失礼ながら、現状では「既存の施策の寄せ集め+SDGs目標番号の貼り付け」という、どこにでもある残念な流れが見てとれる。政策へのSDGsの導入は、国の第5次環境基本計画の展開が非常に参考になる。この計画では、分野横断的な6つの「重点戦略」（経済、国土、地域、暮らし、技術、国際）を設定している、なんと環境省が他省庁の領域に踏み込んでいるのである。従来の環境省の枠組みを越えた提案をしており、従来の部署縄張り意識は過去のものという意気込みが素晴らしい（実際は、よく見ると全て環境課題でつながっている）。そして、その目玉が「地域循環共生圏」の構築となっている。</p> <p>阿南市においても、担当部署の枠組みを越えてSDGsの達成をめざした重点施策をいくつか設定し、徳島県や西日本をリードするような自治体になってもらいたい。次に示すように、その種となる地域資源はいくつもあり、それを阿南市の課題と結びつけ、どのように活かすかがカギである。</p>	<p>1. については、基本政策の一つを「自然と調和した快適で暮らしやすいまちづくり」とし、本市の豊かな自然環境や生物多様性を計画的かつ適正に保全し、持続的な利用による地域の活性化を図るとともに、循環型社会の実現を目指すこととしました。</p> <p>2. 3. については、基本計画の「自然環境」の分野の基本的な方向性として、「阿南市環境基本条例」「阿南市環境基本計画」「阿南市環境保全率先行動計画」に基づき、2050年のカーボンニュートラルの実現や海洋汚染といった地球規模の環境問題の解決に向け、市民一人ひとりの環境にやさしいライフスタイルの定着や省資源・省エネルギーの取組を推進するとともに、本市の豊かな自然環境の保全と利活用を推進し、環境負荷の少ない持続的発展が可能な自然と調和した都市づくりを目指すこととしました。</p> <p>4. については、基本計画において、各施策に関連付けることで、総合計画とSDGsを一体的に推進していくこととしました。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>・「4」の（産業・交流）は主として製造業と観光業の意味と考えるが、阿南市の活力の基盤であり、市独自にどのような支援ができるのか、周辺の市町と連携しながら何ができるのか、県には何が提案できるのか、書き分けて政策化してほしいものである。</p>	<p>御意見は参考にさせていただきますが、基本構想においては、御提案のように細かく書き分けることは考えておりません。</p>
<p>柱の数が少ない事、また、短いフレーズにすることにより、柱となっている政策の分野が他の案よりわかりやすくなると思います。 ただ、言葉に訴えかけるものに書けるきらいがあるので、具体的なイメージがわかりやすいような副題（例;○○○を目指して）を考えるのもいいかと思えます。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>・「まちづくりの視点」同様、3つの案の意味・意義・意図をそのまま活かした内容で、改めて総合的に揉んでまとめてみてよいのではないかと思われるが、どうだろう。</p> <p>・「持続可能なまちづくりを目指すならば、「SDGs」(※3)の基本理念である内容も盛り込んだ「誰一人取り残さないまちづくり」というような表現があってもよいのではないかと。</p> <p>(※3)「SDGs」に関する参考情報 https://note.com/uenotakefumi0921/n/naaeffb4935f8 https://imacocollobo.or.jp/about-sdgs/</p>	<p>持続可能なまちづくりについては、基本構想の第2章に「持続可能なまちづくりの推進」として、SDGsの理念をまちづくりに取り入れ、各種施策の展開を通じて、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、地域課題の解決に取り組んでいくこととしました。</p>
<p>1 工業都市として持続的発展を支える産業政策が重要と考えています。グローバル化の進展や地球環境問題の顕在化、自然災害の多発など、地域と地球の背景が劇的に変化する時代です。時代変化に対応した産業育成への取組や、新技術開発支援、産学連携事業などにより、「持続可能な工業都市阿南」に向けての取組が最重要政策だと思えます。</p> <p>2 人口減少、高齢化が避けられない時代です。行政のスリム化を一層取り組むべきだと思います。</p>	<p>基本政策の一つを「地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくり」とし、その中で、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の開通による交通の利便性の向上を視野に入れ、関係団体や事業者とも連携して農林水産業や商工業の振興を図るとともに、新産業の創出や企業立地を推進し、雇用の拡大に努めることとしました。</p> <p>また、「市民と共に創る持続可能なまちづくり」において、新たな行政需要に対応できるよう、「選択と集中」による行財政改革に取り組み、持続可能な行財政基盤の確立を目指すこととしました。</p>

4. その他

意見等の内容	市の考え方
<p>①「基礎調査」P119で「評価可能な454の具体的取組の評価結果が示されています。これによるとは、454件の施策のうち、431件（94.9%）の施策が「十分な成果が得られている」あるいは「十分な成果が得られる見込みである」と整理されています。</p> <p>②また「基礎調査」P126「総合戦略のKPIの達成状況」では「達成継続」「おおむね順調」あわせると72%の施策が「ほぼ達成」と整理されています。</p> <p>③「基礎調査」P125で「仮にKPIが達成（施策が進捗）できているとしても、「戦略人口」「基本目標の数値目標」が達成されていなければ、計画の評価としては”未達成”さらに「仮に、KPIを達成しているにも関わらず、「基本目標の数値目標」が未達成であれば、基本目標に対応する施策（及び事業）やKPIの設定に問題（関連性が薄い等）がある可能性がある」とされています。</p> <p>④「基礎調査」P126「(1) 2020年の「将来の目標人口」の検証」では、「○阿南市の人口ビジョンにおいては2020年の「目標人口」を、住民基本台帳人口ベースで73,000人超と設定していましたが、令和2年1月1日現在の総人口は72,644人となっており、現時点では達成が困難な状況となっています。」という総括がされています。</p> <p>⑤「①」「②」のとおり、高率で施策としての達成度、成果が見込まれているというコメントの一方で、「④」のとおり、「目標人口達成が困難」という相反する事実があるにも関わらず、その原因が不明で、次につなげる評価がなされている記述も見当たりません。</p> <p>⑥このことから、第5次阿南市総合計画で立てた「基本目標」「施策」「KPI」の設定がそもそも不適切であったのではないかとこの疑問が湧いてきます。</p> <p>⑦「目標達成のための施策・事業内容等の見直しが求められます。」などという曖昧な評価で片付けるのではなく、次につながる具体的かつ的確な評価がなされるべきだと考えます。</p> <p>⑧第6次阿南市総合計画基本構想を取りまとめるにあたって、まず第5次阿南市総合計画の評価を曖昧にせず、的確に評価する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>⑨次の計画目標年度にまた同じ轍を踏まないためにも第5次阿南市総合計画に対する評価、および阿南市を取り巻く外部環境を冷静に分析・整理し、更なる効果的な施策を検討・立案して、第6次阿南市総合計画基本構想を構築すべきと考えます。</p>	<p>次期総合計画では、施策や事業の達成度を客観的に評価できるようにするため、基本計画においては基本目標及び成果指標を定め、4年後に評価・検証、見直しを行うこととしました。また、施策を達成するための主要な事業を示した実施計画において、事業ごとに「目標・指標」を設定することとし、毎年、評価・検証及び見直しを行っていくこととしました。</p>
<p>「人口が少なくなっても豊かでキラリと輝くまち」とか「人口が減少するのに持続可能性」とか夢のような計画であるが、まるでたらめで40年後に人口が半分になる予想など子供に見せるべきでなく、早々にネットから除外して下さい。若者の流出を助長する結果を必ず生む。</p> <p>40年間今のように何もしなかったら半分になるが、人口増加へ繋がる施策を連発すれば20万人になっている可能性も0%ではない。</p> <p>日本を代表する産業都市として先進地の豊田市の総合計画（できれば今回のではなく前回の）を参考にさせていただきたい。 https://www.city.toyota.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/018/341/02.pdf 総合計画基本構想は阿南市として大変重要なことなので、他の市町村と同じような内容ではいけません。予算をかけても独自の構想を展開するべきです。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>アプローチ1にしか、SDGsが示されていません。人類普遍の概念にするために、阿南から積極的にSDGsを計画に取り組んではどうでしょうか。将来的に、計画期間内にSDGsが変更された場合には、適宜計画の見直しを行えばよいと考えます。</p>	<p>持続可能なまちづくりについては、基本構想の第2章に「持続可能なまちづくりの推進」として、SDGsの理念をまちづくりに取り入れ、各種施策の展開を通じて、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、地域課題の解決に取り組んでいくこととしました。</p>
<p>昔、阿南市が経済的に低迷していた時代に、阿南市の先達が阿南の将来を考え、電源開発（Jパワー）、日亜化学工業とともに現在の阿南市の礎を築いた。今後40年で人口の半減が予想される阿南市において、環境、社会、経済の3つの観点から持続可能な阿南市を創らなくてはならない。また食糧エネルギー問題を避けることはできない。自然豊かな阿南市はその環境を生かして、より良い社会を作り、新産業を起ささなければならない。小規模家族産業により介護問題を解決し少子高齢化社会に備えることができ、安全で安心な暮らしを実感できるまちづくりができ、地域資源を生かした新たな賑わいと活力を創出するまちづくりができる。</p> <p>阿南市は、豊かな自然環境を有し竹資源再産業により食料とエネルギーを自給することができる。</p>	<p>持続可能なまちづくりについては、基本政策の一つを「市民と共に創る持続可能なまちづくり」とし、持続可能なまちの実現に向け、SDGsと一体的に推進することとしました。</p> <p>また、竹資源の活用等については、基本計画（基本政策Ⅳ（1農業・林業・漁業）の基本目標3「第1次産業の諸課題の解決と売れる商材の確立」の中で、主要な施策として、「竹資源の活用と放置竹林の再生」に取り組むこととしました。</p>
<p>阿南市は地理的に那賀川流域住民や美波町以南住民の皆様に、消費を始め教育、子育て、就業など熱い視線を頂いており、文字通り文字通り徳島県南部地域の中核都市と就職、教育、ショッピング、子育てなどのバランスの取れたまちづくりを目指すことが重要だと考えています。そのことにより、将来人口減少が避けられなくなっても、県南部住民の生活基盤を充足することが可能になり、繁栄を持続することが可能になり、又、阿南市以外の南部地区住民の生活拠点となることでしょうか。</p> <p>今後、住民が期待するまちづくりを実現できる都市計画に改めて、民間企業や商店、オフィスなどが出展しやすいまちづくりが最も優先課題だと思います。民間活力を活かす都市形成のための諸制度へと改善するとともに、可能な限り「箱物づくり」は適性の範囲にとどめ、超高齢社会に向けて準備すべきだと思います。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>時代の流れは速く、スピード感が求められています。広く会議を興し、万機公論に決すべきだと思います。頑張りましょう。</p>	<p>基本計画において「市民参加による市政を推進」することとしました。</p>
<p>総合計画の機能の一つに、「明るい未来に向かって、今は苦しくても、市民みんなで頑張りよう！」というメッセージ性がある。しかし、人口減少社会における「総合計画」は、とすれば、行政政策の「道具一覧表」になりがちになるので、阿南市の「総合計画」にあつては、市民が夢や希望の持ち、市民としての誇りに向かって語り合えるような「総合計画」に作り上げて欲しいものである。</p>	<p>8年後の都市像を「多様な産業が咲き誇る 生涯チャレンジ都市 阿南」とし、多様な産業の成長・発展を基盤に、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが自分らしさや生きがいを見出し、生涯にわたり主体的に何度も挑戦し、活躍できる地域社会の実現を目指すこととしました。</p>
<p>①40年先というのはあまりにも遠すぎます。 市民の大半（40代以上）は、その検証や責任を持つことが困難であり、夢物語になる恐れがあります。20年また30年先でいいのではないのでしょうか。</p> <p>②人口減少社会における「地区別のまちづくりの方向性」を明確にすること、これを今回の計画の目玉とするもの良いと思います。</p> <p>「富岡地区」については、中心市街地としての位置づけが低下とありますが、行政機関の集積、充実した教育・医療環境、銀行や買物物の利便性、防災面の強みなどがあり、「商業地域」から「居住地域」へ転換すべき時期にきているのではないのでしょうか。</p> <p>一方、「羽ノ浦・那賀川地区」は地下低下の影響も考えられ、短絡的ないこうかもしれないことに留意する必要があると思います。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p> <p>なお、長期ビジョンを2060年とした理由は、阿南市人口ビジョンを2060年までとしたことによります。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>1. SDGsを進めるには、新たな部署と阿南独自のLocal SDGsの宣言と推進が必要である。</p> <p>SDGsの達成に向けた取り組みとあるが、経済・社会・環境の統合的解決が求められるSDGsにおいては、従来の枠組みにとらわれた市役所の部署割りでは心許ない。市長の強力なリーダーシップのもと、従来の部署を超えた担当の配置と施策の設定・実施が不可欠になってくると思われる。総合計画では、SDGs推進を担当する部署の新設等への踏み込みが必要である。</p> <p>そして、SDGs未来都市（北九州市、富山市等は必見）等の先進地の取り組みをもとに、阿南市独自のLocal SDGsや地域循環共生圏設定し、達成を目指すべきである。</p> <p>阿南市にも、沢山の地域資源の芽が芽吹いている。しかし、それぞれ1つでは弱い。有機的な連携がカギと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●産業と自然の共生 <ul style="list-style-type: none"> ひかりのまち（LED産業） 企業における環境ビジネスの推進・環境配慮の主流化 ●全部そろった自然資源 <ul style="list-style-type: none"> 国定公園（北の脇や蒲生田、東部海岸林）の活用、マリンスポーツの充実 竹林 <ul style="list-style-type: none"> 豊かな農・水産物 水環境（那賀川と桑野川）（自然再生事業） 生物多様性ホットスポット ●エネルギー供給 <ul style="list-style-type: none"> 火力発電所の行く末 風力発電の「ポテンシャル」は高い 竹林・バイオマス ●文化と人柄・交流 <ul style="list-style-type: none"> 88番札所・遍路道・遺跡 活発なコミュニティ（加茂谷・新野など） 野球のまちとのコラボ <p>これらの資源と阿南市の課題を上手く連携させた、「地域循環共生圏」の構築によって分野横断的な大きな施策の柱ができよう。</p> <p>現在改定中の環境基本計画では、「環境面からの第6次阿南市総合計画の推進」をキーワードに取りまとめを進めており、ぜひ総合計画との積極的な連携を図っていただきたい。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p> <p>なお、持続可能なまちづくりを進めるため、基本構想の第2章に「持続可能なまちづくりの推進」として、SDGsの理念をまちづくりに取り入れ、各種施策の展開を通じて、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、地域課題の解決に取り組んでいくこととし、基本計画において、各施策とSDGsの17のゴールを関連付け、総合計画とSDGsを一体的に推進することとしました。</p>

意見等の内容	市の考え方
<p>□来年のダボス会議のテーマは、「グレートリセット」(※4)。「SDGs」→「サーキュラーエコノミー(循環経済)」と変遷してきたダボス会議の来年のテーマは、「グレートリセット」。今後のまちづくりを立案していく上では、その意味について考察しておくことは非常に大切であると思われる。</p> <p>(※4)「グレートリセット」に関する参考情報 ・テトラノオト # 153 グレートリセット ～資本主義をリセットする、新しい社会契約とは？ 世界経済フォーラム2021年テーマ https://www.youtube.com/watch?v=3M2cZsCCgBE □これからの「まちづくり」、「さとづくり」には、「防災・減災」への対応も含め、以下の視点が必要。 ・「ランドスケープ デザイン」 ・「グリーンインフラ」 ・「Eco-DRR」 上記の参考情報 https://www.mlit.go.jp/common/001179745.pdf https://www.mlit.go.jp/common/001180165.pdf http://green-infra.jp/green-infra/01/ http://www.env.go.jp/nature/biodic/eco-drr/pamph01.pdf □今回の阿南市総合計画基本構想の位置付けと他の計画(案)との関わり、整合性は、どのように今後取り扱われるのか。 □今後の総合計画基本構想の実現に向けたロードマップを示していただきたい。 □今後も住民が計画の立案及びその実現に向けた動きに主体的かつ積極的に関われるよう、各プロセスにおいてパブリックコメントを継続実施していただきたい。 □今回の基本構想作成に要した日数と費用について知りたい。 最後にになりましたが、今回の骨子案、並びに基礎調査報告書等の作成に関わられた方々のご努力ご苦労に対し、篤くお礼申し上げます。</p>	<p>御意見を参考にさせていただきます。</p> <p>なお、個別の御質問への回答は差し控させていただきます。</p>
<p>J A 加茂谷 再利用提案 (資料送付あり)</p>	<p>ご意見・ご提案を参考にさせていただきます。</p>
<p>・いずれの構想案も内容が抽象的であり、具体性に疑問がある。老若男女、市民が理解可能な具体的表現がよいと思います。特に、次世代を担う子どもたちが理解できるよう配慮が必要です。阿南市を正しく知り、阿南市を食べ、阿南市で遊び育てることにより「ふるさと阿南市」に誇りを持つことが極めて大切です。徹底した阿南市教育と体験的学習こそが、Uターン率向上につながるものと思います。</p> <p>・安全・安心のまちづくりとインフラ整備 想定される南海トラフ地震や津波災害、さらには那賀川、桑野川の治水対策は待ったなしです。就業は阿南市へ、定住は安全な町へ、となり、定住人口減少につながります。「安全な町」はまちのブランドです。高速道路整備が進んでいます。安全な住宅地確保、安全な工業団地づくりは持続可能な阿南市づくりの根幹事業だと思っています。長年、農業関係団体に帰属して活動しています。阿南市都市政策としてコンパクトシティに取り組んでいます。その一方で、農地の宅地化が拡大し、スプロール化が進んでいます。都市計画では、コンパクトシティへ。農地政策ではスプロール化を許容しています。行政施策の齟齬により翻弄されています。今後のまちづくりでは、農地政策と事前防災、都市構想の視点により、総合計画において方向性を示すべきではないかと考えています。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただきます。</p>